



日本人の100人に一人!?

# カエルグッズに見る カエラーたちの 系譜

く↓ お気に入りのカエルグッズ



中国製

「カエラー」という言葉が登場したのは、今から**約10年前**（1990年代末）とされている。その頃、どういうわけか文具や日用品にカエルをあしらったカエルグッズなどが急に目に付くようになり、やがて街に溢れてきた（ように私には思えた）。そして、当時流行していた「シャネラー（シャネル愛好家）」や「アムラー（安室奈美恵を模倣したファッション愛好家）」にならい、「カエラー（カエルグッズ愛好家）」が誕生したのだ。

① ユーモラスな貯金箱



それ以前から、時々ま目にするカエルの置物（民芸品）などを細々と集める生活を送ってきた私にとって、世の中のこの変化には、まさに目がくらむ思いだった。それまでの日陰の存在から急に表舞台に立たされ、一躍「時の人」となってしまったような気がした。

さらに**食玩ブーム**が始まり、チョコエッグ～日本の動物シリーズで、リアル系グッズの人气が爆発した。1個130円のチョコのおまけが数千円で取引されることもあった。今から考えると、かなりバブリーなブームだったのかもしれない。

② 食玩のカエルなど



大谷石(宇都宮市)

そんな「カエラー」の**大先輩**が、**100年前**にもいたという。その名を「**小澤一蛙**」（おざわ いちかわず 1876-1960）。もちろん本名ではない。『自らそう名乗るほどのカエル好きでカエルものなら玩具、置物、灰皿、絵画等々なんでも集めていた。また、古今東西の詩歌や童話に現れるカエルについても研究するなど、カエル趣味を極め大往生を遂げた人だった』『そのコレクションは大正12年の震災で**2000点**以上を失ったという。しかしその後も再び集め始め、世を去るまでに**3000点**を収集した』そうだ。（「カエラーたちのつばやき」高山ケロリ・高山ピッキ編著 グスコ出版 より引用）

③ 本県が誇る大谷石製



④ カエルサブレ・まんじゅう



信楽焼(滋賀県)

この**小澤一蛙展**が、東京・吉祥寺にある「井の頭自然文化園」で昨日まで開催されていた。予定では、12月28日までであったが、好評であったため期間が延長されたのだ。（上の写真は会場の入り口付近。1月12日入園）。確かに100年前にも、カエル好きは存在したのである。

そして、現在、カエルグッズを集めたり、何となくカエルが気になる人も含めると、日本全国に**100万人**（日本人100人に一人）くらいは、「カエラー」が存在するという（同書より）。日本の消費文化に支えられ、カエラーたちの系譜は今も続いているのである。

←⑤カエルの置物の王様  
信楽(しがらき)焼、いろんなバリエーションがある。

⑥佐野が誇る天明鋳物→  
「ぜひカエルを作って」と頼んだら本当に作ってくれた。けっこう売れてるらしい。



天明鋳物(佐野市)

